

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871400226
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ宇和
所在地	西予市宇和町卯之町5丁目233番地
自己評価作成日	平成25年12月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者さんのできる事を奪うことなく、一人一人の気持ちを考えながら、その人らしく生活していただける様に支援している。 第2の我が家になるよう、居心地の良さを提供していきたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>退院後、「ホーム内を車いすで自由に動けるようになりたい」という利用者の希望に沿って、まず背もたれから体を起こすことから始め、足あげ運動やレクリエーション等、細かく介護計画を立て支援したケースがある。利用者ご本人は、ホーム内を自走できるようになり、ドライブや散歩等外出の機会も増えているようだ。ご家族には、計画を見直す際に意見をうかがい、さらに出来上がった計画に対するコメントもいただくようになっている。 洗身前に浴槽で温まりたい方の希望に沿ったり、寒がりの方は、洗身中も足を温められるよう気を配っておられる。又、耳にお湯がかかることを嫌う方には、シャンプーハットを使用して支援されている。シャワー椅子には必ず濡いたタオルを敷き、気持ちよく座ってもらえるように配慮をされている。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ宇和

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 笹田 智子

評価完了日 H25 年 12 月 6 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 全職員で話し合い、理念を決めた。ホーム内に6箇所掲示している。理念に基づいた実践に各自心掛けている。意識付けのために、申し送り時に理念を読み上げていたが、何時しか行わなくなった。	
			(外部評価) 職員で話し合い「地域に開けた施設作り、その人らしい人生を共に考え、笑顔のある生活を送れるお手伝いをする」と理念をつくっておられる。管理者は理念に込められた思いを職員に話し、笑顔を大切にされた支援への取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 食材の買い物は近所のスーパーを利用している。また、回覧板のやり取りをし、地区の行事(掃除・総会・敬老会・非常災害時訓練など)には積極的に参加している。地域の祭りの時には、必ず訪問していただいている。地域住民参加型の行事(納涼祭・介護教室)も開催している。日頃からあいさつを交わしている。御近所の方が育てたお花を頂く事もある。しかし、日常的とは言えない。	
			(外部評価) 「地域との交流を深めていきたい」と、事業所で行う介護教室や納涼祭前には、案内ポスターをスーパーや商店に貼って参加を呼び掛けておられる。保育園の園児の訪問があり、お遊戯や手遊び等、利用者を楽しませてくれたり、小・中学生は、福祉体験授業の一環で認知症や施設について勉強してくれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 福祉体験ボランティアや中学生の福祉体験実習の受け入れを行っている。また、介護教室を開いて、地域の方へ働きかけている。民生児童委員の方々の施設訪問も受け入れ、施設説明等行った。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ホームからの報告を行い、意見を聞かせてもらっている。主に、地域行事・レクの情報提供をして頂いている。昨年、家族だけで話をする会を設け、意見を聞かせてもらった。警察署へ依頼し、離所時の対応方法について指導を受けた。消防署へ依頼し、地震及び自然災害時の対応方法について指導を受けた。</p> <p>(外部評価) 行事と会議を同日開催した場合でも、事業所からの活動報告や意見交換の時間を取るよう取り組まれている。昨年は、警察から離所の対応について詳しく指導を受け、支援の振り返りをされた。ご家族には都合のつく時に参加してもらっている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当職員の方に運営推進会議へ参加してもらっていて、その時に事業所の実情等に関して報告している。質問・苦情・事故などがあれば、その都度、報告・連絡・相談をしている。介護相談員の方の訪問も受け入れている。</p> <p>(外部評価) 運営上、法令等で分からないことがあれば法人の統括課長が市の担当者に問い合わせしてくれるシステムがある。運営推進会議では、会議の持ち方等を助言していただいている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) どうすれば身体拘束をせずに、安全で自由に過ごせるかを常に考え、話し合いケアにあたっている。やむを得ず、鈴やセンサーマットなどを利用しているが、拘束に値するという認識を常に持ち、ケアにあたっている。</p> <p>(外部評価) 落ち着かない状態の利用者がいる場合は、捜索することがあることを踏まえて写真等を準備されている。2階の入り口にはセンサーを設置しており、通過すると音が鳴るようになっている。ご家族には、「利用者の行動を制限しない」ことを説明しておられ、移動に介助が必要な利用者が立ち上がりそわそわする様子が見られた時等には、「どこに行きたい？」と言葉をかけて、利用者の意向を大切に支援に努めておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内・外での研修に参加しているが、高齢者虐待防止法を学んでいるのは一部の職員だけである。虐待はいかなる時でもしてはならないという認識は全職員にある。虐待が見過ごされないよう職員同志で注意し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度については研修に参加し知っている職員もいるが聞きかじった程度で活用できない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長が丁寧に説明し、同意を得ている。法改定や契約内容の変更があれば、説明文章を添えて同意を得るようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や電話対応の際必ず近況報告をし、家族が職員と話しやすいようこちらから働きかけている。意見箱を玄関に設置している。契約時に相談窓口について説明している。家族からの意見に対し、スタッフ会等で話し合い対応し、家族に報告している。個別援助計画に家族の意見欄を設けている。入居者さんへは、日頃から気持ちを聞いたり、思いの理解に努め対応している。介護相談員の訪問もあり、意見を聞いてもらっている。家族の会を昨年開催した。 (外部評価) 家族会を納涼祭と同日に行ない、お祭の前か後に話し合いの時間を持っておられ、管理者は、各テーブルを回ってご家族の声を聞くよう取り組まれている。ご家族の来訪時には、その都度利用者への対応について話し合われている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者へは、個別の面談や日常的に意見を伝えることができ、ホーム単独で改善できる内容のものはスタッフ会で決定しすぐに対応反映されている。また、法人課長が不定期に訪問し、職員から意見を聞いている。職員の体制の問題は意見しても改善されない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員は、申し送り時に意見を出したり、日々の中でも管理者に提案し相談しながら取り組みをすすめておられる。職員は、行事等についてもアイデアを出しておられ、そうめん流しを計画した時には、ミキサー食の方も雰囲気を楽しめるよう、卓上用そうめん流し機を持参して工夫された。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>資格取得を奨励し、有資格者には正職員登用制度がある。管理者は、職員の勤務実績を上司に報告しているが、給与にどの程度反映しているか分からない。また、元々の給与水準が低い。代表者は、個々の状況を把握できているとは思えない。また、条件の整備に努めていると思えない。管理者は、昼休憩をとるように言っているが、満足に取れないときもある。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>年2回能力開発カードの実施と管理者からの報告はしているが、職員1人1人の把握ができているとは思えない。法人で新入職員・中堅者・管理者研修と付帯施設の勉強会がある。法人外の研修情報提供と参加のためのフォローもされている。研修案内職員が研修参加できるようにしている。研修委員も新設した。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>法人内のグループホーム職員との交流がある。また、他施設実習を行った。西予市のグループホーム合同研修会が開催され、参加している。福祉ボランティアの会で同業者との交流がある。施設運営についてや看取り介護について法人外事業所からの問い合わせや訪問も受け入れている。継続した交流はもてていないが、その時々で情報交換をし、良いことは持ち帰り職員間で話しをしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>たくさん声かけをし、ゆっくりと話しができるよう配慮している。話を傾聴し、その方の思いの理解に努め対応している。意思疎通の困難な方は、行動などで理解しようとしている。入居前は、事前訪問を必ず行い、事前見学も勤めて行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には、事前訪問をし、ホームに入居してからの必要な援助等について話し合いを行っている。面会時には、日常の近況報告を必ず行っている。月に1度、手紙で近況報告もしている。契約時や面会時に何が要望がないか伺うようにしている。介護計画書の中にも、希望・要望が書き込めるようにしている。 家族・入居者の希望があれば、ホームでの生活を見ていただくために、家族の宿泊を了解している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 生活歴・家族や本人の話し・医師の所見等から何が必要で求められているのかを見極める努力をし、話し合いケアプランに取り入れて支援している。在宅のケアマネや利用中の介護事業所からも情報提供してもらっている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の好み・能力に合わせて、生活上の仕事を分担していただいている。御本人の出来ることは、なるべくしてもらえるように支援している。手伝いの際「ありがとう」の声かけをし、持ちつ持たれつの関係ができています。家庭の延長だと思って頂けるよう努めている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出・外泊・病院受診など協力してもらっている。また、職員では対応しきれない内容・状況があるときには、協力してもらうことがある。些細なことでも、情報交換・情報共有している。壁新聞で日頃の様子を張り出し、面会時にみてもらっている。定期の報告に写真送付状を送付している。事故やヒヤリ・状態変化があれば必ずご家族へお伝えしている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人・家族にかかりつけや行きつけを確認し、入居後の美容院・病院など相談し決めている。 ご自宅のご近所さんや友人が面会に来られることも多いので、ゆっくりくつろいで話せるよう配慮している。本人の馴染みの場所にドライブし、知人に会い、交流している。認知症の進行で継続困難な方もいらっしゃる。 (外部評価) 事業所の近くにある親戚のうちへ行くことを楽しみにしている方がおられ、ひとりで出かけられるよう親戚の方と連絡を取り合い、支援されている。近所から知人が会いに来てくれることも多い。釣りが好きだった方には、海が見える場所に出かける機会を作っておられ、ご本人はとても喜ばれるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い関係や対立する関係を見極めて、席の配置などを工夫し、必要な時だけ間に入り援助している。利用者同士で話したり、共同で行える作業提供をし、孤立することのないよう努めている。認知症の進行やもとの性格で感情の起伏が激しくコントロールできない状況があれば、一時他者との距離を置きトラブルを避けることも行っているが、職員が関わり孤立する事はない。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院になった場合も、居室の取り置き期間があり、ホームに戻りたいと希望があれば期間内の取り置きを行い、入院中の方を見舞ったり、病院とも連絡を取り合うようにしている。退居後でも、病院を見舞ったりご家族と連絡を取ることもある。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや要望を日頃から伺い、ケアプランに反映させている。思いを伝えられない方も、御家族の話や日頃の様子を見て求められていることや必要性を本人の立場に立って考え、話し合い検討している。 (外部評価) 入居前・入居1ヶ月後・その後は3ヶ月ごとに聴き取りをして、アセスメントを更新されている。又、普段からいろいろな場面で利用者の言葉を拾い、追加されている。「仕事をしたい」という利用者の思いや意欲を大切にして、利用者間のトラブル等に気を付け、個々が作業できるよう場所や場面作りを支援されている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前訪問・入居時や面会時に御家族から情報収集している。また、生活の中で本人からも伺うようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で状態観察をし、変化があれば記録に残し、情報を共有している。また、スタッフ会でも状態変化に伴い話し合いをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、作成している。日常の中で発した意見・希望、面会時に聞いた要望、通院や往診時のDrアドバイス・指示また医療連携看護師のアドバイスをふまえ、現状と照らし合わせて作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>退院後、「ホーム内を車いすで自由に動けるようになりたい」という利用者の希望に沿って、まず背もたれから体を起こすことから始め、足あげ運動やレクリエーション等、細かく介護計画を立て支援したケースがある。利用者ご本人は、ホーム内を自走できるようになり、ドライブや散歩等外出の機会も増えているようだ。ご家族には、計画を見直す際に意見をうかがい、さらに出来上がった計画に対するコメントもいただくようになっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人記録ファイルにケアプランを挿み、また、個人記録に目標・援助内容を記入し、日々確認できるようにしている。介護記録に様子が分かるように気づき・対応を記入し、申し送っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれの主治医との連携も行い、対応している。医療連携体制をとっており、週1回の看護師の訪問により、アドバイスを受けている。医療協力機関の石川内科から2週に1回の往診もあり。また、急変時にも対応できるようにしている。訪問理美容・介護タクシーの利用など導入している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>依頼をし、ボランティアの訪問、消防署協力による避難訓練及び指導に来て頂いている。近くのスーパーへ時々入居者の方と一緒にいる。週1回パン屋に来てもらい、好きなパンを選んでもらっている。必要な自助具の手配や調整を依頼し訪問してもらっている。訪問理美容・介護タクシーも利用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に担当医の希望を伺い、対応している。症状に合わせて、適切な医療機関の受診ができるように支援している。	
			(外部評価) 協力医は、2週間に1回往診がある。他のかかりつけ医には、ご家族が介護タクシーの介助で通院されている。介護タクシーは、利用者によって決まっており、状態を書面にして託したり、質問したいことを伝えておき、詳しい報告を受けるようになっている。状態によっては、管理者が直接かかりつけ医に会い、説明を受けることもある。協力医以外で診てもらっている利用者については、緊急時には救急車を呼ぶことになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携看護師に状態を毎日報告し、必要時に電話で相談、確認が必要であれば訪問してもらっている。また、週1回の定期訪問時に相談・アドバイスを受けている。終末期の対応も可能。かかりつけ病院の看護師にも相談しながら対応している。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 職員が面会し、医師や看護師・ご家族から状態について情報を得て退院に向けて備えている。退院時には、サマリーを頂き、退院後の生活が不安なく過ごせるように努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時には終末期の御希望を伺うが、ほとんどの方が今は考えられないと話す。運営推進会議で看取りについて話し合いをし、意見が聞けたご家族もある。ただ、早い段階でのしっかりとした話し合いは行っていない。ホームで行えることについては、文書で配布している。重度化してきた場合には、本人・家族・主治医などと必要に応じて相談し、今後の方向について決めている。また、ホームで対応可能な内容についても話を理解を得ている。余命宣告を受け、終末期に入られた時点で同意書を交わし、家族・医師・看護師との話し合いをくり返し、不安の解消と具体的な支援を決定している。	
			(外部評価) 終末期の支援については、入居時、ご家族に説明を行い、終末期に入ると、具体的な話し合いを行うことになっている。看取りに関して、現在はご家族の意向に添うことが多く、事業所では、今後、「利用者の意思を知ることにも取り組みたい」と考えておられた。過去2名の利用者を看取った事例があり、管理者は職員の不安に対して、「命が尽きるということは自然のことであり、怖いことではない」と伝えられている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルがある。また、経験の浅い職員に対しては研修参加をさせたり指導も行っているが満足でない。定期的な訓練は行えていない。 連絡体制については、スタッフ会等で話し、いつでも確認できるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成し、いつでも見られるようにしている。 スタッフ会で誘導・通報・応急手当等の分担について話し、自分の役割を把握している。 定期的に避難訓練を行い、入居者の方にも避難経路の確認をしてもらっている。 運営推進会議を利用し、メンバーさんにも協力してもらい避難訓練を実施した。 (外部評価) 消防署の指導のもと避難訓練を実施して、火災時には「火元から分かれて外に出る」ことを職員間で確認されている。事業所建物は、震度7までの耐震構造であるため、地震発生時には、外に出ず、食器棚等から離れた場所に集まり、クッション等で頭を守ることがを慌てず行なえるよう練習しているところである。今後は、「地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議時に災害を議題に話し合う等、自然な形で地域と協力体制を作っていきたい」と考えられている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという気持ちを忘れず接している。 記録などの取り扱いにも注意している。 居室への入室の際は必ず本人の了解を得ている。 言葉遣いに気をつけ、不適切な言動があれば職員同士で注意しあっている。 (外部評価) 写真・ビデオ・テレビの取材やレクリエーション・廊下の掲示物・雑誌・ボランティア・事例検討時等、想定される場面ごとに項目をつくり、個人情報の取り扱いについてご家族の了解を得ておられる。プライバシーを守るためには、まず一人ひとりの思いを知ることが大切と考えられている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 着る服・食べたいもの・見たいものなど本人から聞き取り対応している。 意思の表出を促し、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 掃除・体操・食事・入浴の時間は大体決まっているが、その 時にするかしないかは本人の意思にまかせている。できるだけ 利用者の要望に沿った暮らしができるよう援助している。 希望通り、その日に実践できない場合は本人と相談し予定 変更するなど対応し、要望を叶えるように努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 自分で服を選んでもらったり、髪型を決めたり出来るよう援助 している。爪切りや髭剃りはこちらが気をつけている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ・調理・配膳・下膳・食器洗いなど個々の能力に あった手伝いを一緒に行っている。また、好みの把握もして いる。 ゆっくり食事が出来るように声掛けを行っているが、数名の 方のペースが速く、食べたらすぐ薬・歯磨きと気忙しく動かれ るため、落ち着かない雰囲気がある。	
			(外部評価) 1階のユニットでは、利用者の状態によりケアに職員の手が 取られることもあって、半年前から食事の一部を業者から取り 寄せて対応されている。ご飯・汁物・刺身・生野菜・果物は今 まで通り手作りされており、ちらし寿司や炊きごみ等、ご飯等 を工夫されている。2階のユニットは、食事全般を手作りされ ており、利用者は、下拵えや片付けを職員と一緒に行ってお られる。シルバーカーに食器を乗せて下膳する利用者も見 られた。	管理者は、食事を手作りすることのよさをよく理解されてい る。利用者がおいしい食事を楽しめるよう、状況改善に応じ て形態を見直していかれてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) こまめに水分補給を促している。ポカリスエットも常備して提 供している。 それぞれに合わせた、食事量・形態で介助も必要に応じ 行っている。 食事量のチェックをして、状態に応じて栄養補助食品で対 応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後、口腔ケアを援助している。 その人その人の能力に応じ、足りない部分を介助している。 粘膜ブラシで口腔内のマッサージを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は、全ての方がトイレで排泄できるように援助している。個々の排泄パターンを確認し、必要な援助を行っている。本人からの訴えやしぐさや排泄間隔での誘導をしている。 (外部評価) トイレ近くに排泄チェック表を置き、職員同士が声をかけ合い確認しなくても分かるようにされている。時間を決めて誘導することを続けることでおむつから布パンツで過ごせるよう改善されたような方もおられる。又、夜間居室でポータブルトイレを使用する方もあるが、立ち上がりやすくなった方には、介助バーを使うことで立ち上がりやすくなったケースもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取を促し、食事を消化しやすい形態にしたり、ヤクルト・ヨーグルト・牛乳の提供をしている。毎日、運動を取り入れている。又、下剤も便の状態に合わせて調節している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間帯や回数は目安として決めている。本人の希望があれば、希望を最優先して対応している。夜勤帯の入浴希望が出た場合は、職員体制が整わないため、お断りしている。くつろいで入浴できるように支援している。不穏状態が現れた場合は無理せず、日を改めている。 (外部評価) 入浴は、おおよそ3日に1回とし、希望があれば回数を増やし、2人介助で支援する場合もある。洗身前に浴槽で温まりたい方の希望に沿ったり、寒がりの方は、洗身中も足を温められるよう気を配っておられる。又、耳にお湯がかかることを嫌う方には、シャンプーハットを使用して支援されている。シャワー椅子には必ず湯いたタオルを敷き、気持ちよく座ってもらえるように配慮をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の換気、温度調節に気をつけている。起床・就床時間は個々の生活習慣やその日の体調や要望等に合わせている。昼間の休息は自由にとってもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情報をいつでも見られる所へファイルし置き、確認するようにしている。 薬の目的や副作用などにも目を通し支援している。 内服薬変更時には、申し送り・日誌の記入し、薬の内容により、その後の状態観察を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活で、一人ひとりの力を活かした役割分担がされている。認知症の進行で意思表示が困難になっている方も、話を傾聴したり、話しかけることで少しでも心が和めばと対応している。 月1回、レクを計画し実施。個別外出・散歩など気分転換・楽しみにつながる支援を行っているが、充分とはいえない。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 寒さ・暑さが厳しい時期はなかなか外へ出られないが、気候の良い時は買い物や近所の散歩へ出かけることがある。 畑での収穫・手入れなど一緒に行くこともある。 お墓参りやお見舞いなどの希望は家族に伝え、協力してもらっている。したいこと・行きたい所などの要望は少ない。	
			(外部評価) 道の駅等の整備されたトイレを使用させてもらうことで、利用者が外出できる機会が増えているようだ。外食をする場合は、ミキサーを持参して、全員で食事ができるよう支援されている。ご家族も一緒に亀の池温泉に出かけた際には、福祉風呂・障害者風呂・家族風呂等を利用して職員が介助等を行い、利用者も温泉をととても喜ばれたようだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族の了解を得て、日用品の購入や病院の支払・祭りの御祝儀を出される方もいる。 ほとんどの方は管理が困難なため手持ちでお金を持っておられず、支払う場面はない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をしたり、手紙の返事を書いたりする援助をしている。 贈り物が届いたらお礼の電話を必ずかけるようにしている。 書ける方は、年賀状を毎年書いて貰う様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 季節の花を飾っている。時期のものを貼り絵にして季節感を演出している。月行事に関連した飾りをしている。TVの音や外からの光・室温などは入居者に聞いて調節している。 トイレに個人のパットなどを置いているが、人目に触れにくいように工夫している。整理整頓に努めている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 利用者同士の関係性や椅子の配置の工夫をし、最善の居場所作りに努めているが、入居者同士の言い合いもある。共用空間には仕切りがないものの、各々の過ごし方ができるように配慮している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 家族写真などを飾っている。 本人の使い慣れたものや馴染みのものを持ってきてもらうように家族へ説明している。 面会があれば自室で過ごされるが、その他は、ほとんどホールで過ごされる。 ポータブルトイレや居室のオムツ類は人目に触れにくいようにカバーを掛けている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> 危険物は除去し、工夫することで出来るようになることは、改善している。 自分のことはなるべく自分でしてもらい、困っていることは一緒に行くことで安心して活動できるように支援している。 入居者さんによって対応方法に変化が必要なことを日々の業務の中で話し合っている。	